

# 熊本県の歯科保健

## ～健康長寿の実現に向けて～

熊本県 健康福祉部健康局 健康づくり推進課

参事 井上秀代

これまで5回にわたり、各ライフステージにおける県の歯科保健事業及び医科歯科連携事業について紹介してきましたが、今回が最終回となります。

今回は、高齢期について紹介します。



### 第6回（最終回） 高齢者の歯科保健

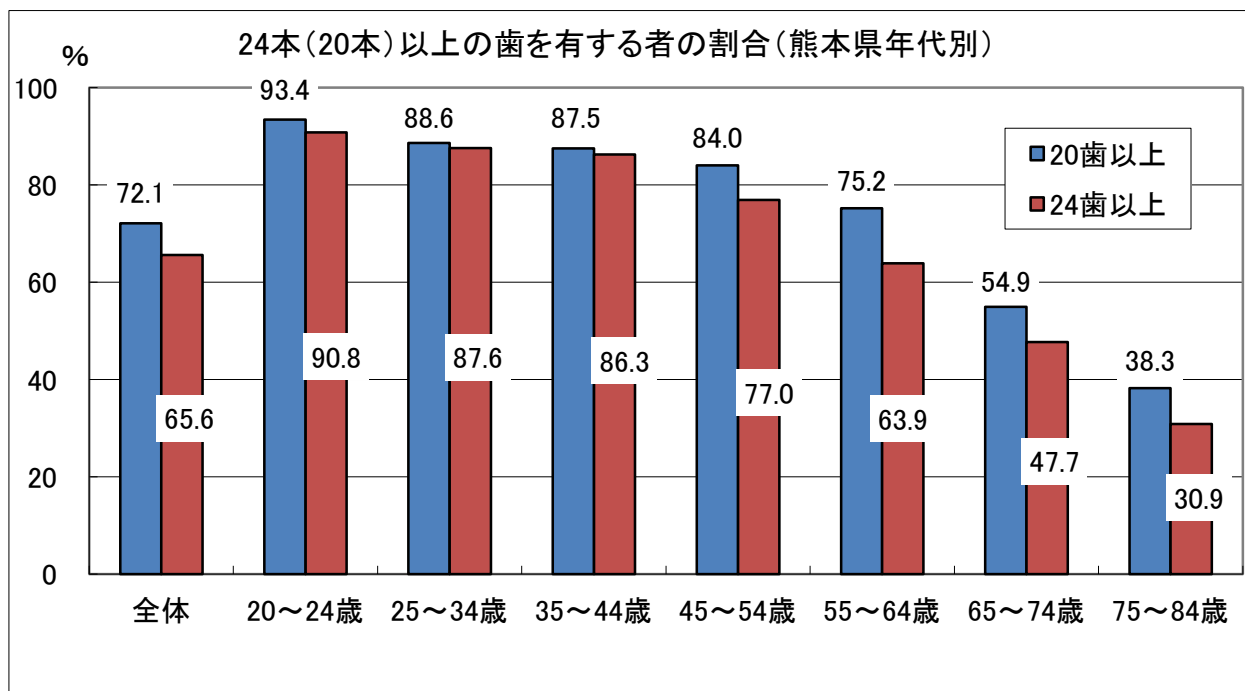
#### 🌿 高齢者における歯科保健の現状と課題

##### (1) 8020運動の達成状況

本県では、80歳になっても自分の歯を20本以上保つことを目標に、「8020（ハチマルニイマル）運動」を推進しています。歯を喪失する人の割合は年齢とともに増加しますが、特に、65歳から84歳にかけて増加が著しく、特に75歳から84歳で20本以上ある人は38.3%と全国平均（40.2%）より少ない状況です。

歯の喪失が進むと食べる機能が低下し、食生活に支障を来すようになることから、低栄養や身体の機能低下を招きます。

こうした歯の喪失を防止し、咀嚼機能を維持していくという観点から、「熊本県歯科保健医療計画」等の中で「80歳において20歯以上の自分の歯を有する者の割合」を約50%に、また、歯の喪失が急増する50歳前後の方の身近な目標として「60歳において24歯以上の自分の歯を有する者の割合」を約70%に設定し、取り組みを進めています。



出典：平成23年度熊本県健康づくりに関する意識調査

## (2) 市町村における口腔機能の維持・向上に対する取り組み状況

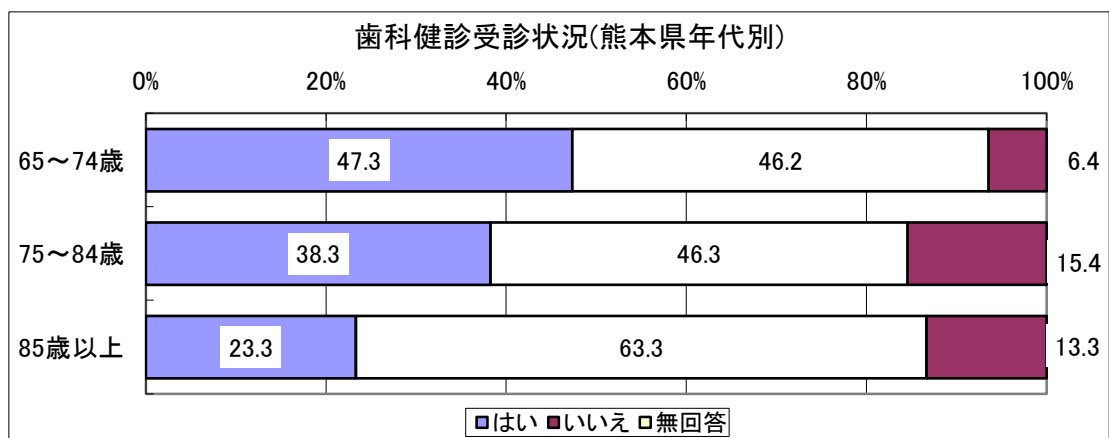
唾液分泌量の減少や口腔乾燥症、咀嚼・嚥下機能の低下により、口腔の自浄作用の低下や食物や飲み物の誤嚥が起りやすくなり、介護予防のためにも口腔ケアが重要ですが、市町村での取り組みは十分とはいえない状況です。

### <市町村の取り組み状況>

内 容	実施率
介護予防事業「口腔機能向上プログラム」	約17.8% (平成27年度 8市町村)
複合プログラム（運動器、栄養、口腔、認知のいずれかを複合的に実施）	約44.4% (平成27年度 20市町村)

## (3) 高齢者の歯科保健行動

歯科疾患（歯周病やむし歯）は自覚症状を伴わずに発生することが多く、ある程度進行した時点で症状が生じます。そのため、定期的に歯科検診を受診し、早めに歯科治療を受ける習慣を付けることが歯の喪失の抑制に効果的です。しかし、過去1年間に歯科健診を受けた人の割合（平成23年度結果）は、65歳から74歳が47.3%、75歳から84歳が38.3%、85歳以上が23.3%と、いずれの年代も50%に達していません。



出典：平成23年度熊本県健康づくりに関する意識調査

## 🌿 高齢者における歯科保健の取り組みの必要性

平成8年から実施されている厚生科学研究「口腔保健と全身的な健康状態の関係に関する研究」において、80歳の高齢者を対象とした統計分析等から、歯の喪失が少なく、よくかめている者は、QOL（生活の質）や活動能力が高く、運動・視聴覚機能に優れていることが明らかになっています。また、「要介護者に関する調査結果」でも、口腔衛生状態や咀嚼能力の改善を図ることが、誤嚥性肺炎の減少やADL（日常生活動作）の改善に有効であることが示されています。

## 🌿 今後の歯科保健の取り組み

本県では、口腔の状態と全身の健康との関係や食べる機能の維持・確保、歯の喪失防止に関する知識の普及を図るとともに、個々の高齢者の状況に適した口腔ケアや摂食・嚥下リハビリテーションを提供することができる人材の育成を行っています。

また、高齢者の歯科保健医療の新たな取り組みとして、訪問歯科診療や口腔ケア指導のコーディネート機能を持つ在宅歯科医療連携室の運営や機器整備への助成を通じて、在宅歯科医療を推進する体制の整備に取り組んでいます。

一方、熊本県後期高齢者医療広域連合では、熊本県歯科医師会、熊本県歯科衛生士会、熊本県国民健康保険団体連合会等の協力の下、平成28年度から後期高齢者を対象とした歯科口腔健康診査事業を県内一斉に実施することとしており、市町村においても次年度の事業開始に向けて準備が進められているところです。

このように、高齢者の歯科保健医療の充実に向け、医科・歯科・福祉の関係機関・団体の連携を図って推進しています。

### ～連載を終えるに当たって～

熊本県の歯科保健医療について、これまで6回にわたり、情報提供させていただきありがとうございました。

歯・口腔の健康が、健康で質の高い生活を営む上で重要な役割を果たしており、健康長寿につながることを、各ライフステージの特性を踏まえつつ紹介してきました。

これからも熊本県歯科医師会をはじめとする関係機関・団体と連携を図り、生涯を通じた切れ目のない歯科保健医療施策を推進していきたいと思えます。

